第４回　道の駅おがち利用促進検討会の概要と意見

■委員からの意見

（株式会社 小町の郷 代表取締役社長　押切宗助 氏）

・道の駅は、地域活性化の拠点として活動を続けている。

・今後は防災拠点としての在り方や、地域の交流の場、地域の物産の発信拠点などの役割が求められる。将来的には生産拠点として全国展開することが目標である。

・道路に面していればいるほど、道の駅としての伸びは期待できる。是非とも高速道路からの取り付け道路を希望している。駐車スペースの確保などの必要があれば、それに向けて努力する。

・道の駅が、地域発展に貢献できるよう努めていきたい。

（湯沢市雄勝観光協会 会長 高橋修一 氏）

・平成１９年の湯沢横手道路開通時は、ＪＲ横堀駅をつなぐアクセス道路が必要という意見もあった。しかし、時代が変わって雄勝地域の中心は道の駅になっている。現在は全国でも有名な小野小町をテーマとした公園も整備されており、今後の雄勝地域の拠点は道の駅である。

・横堀道路が令和７年度内に開通見通しとされているが、上り下りのお客さんをしっかりと集客し、雄勝の地域活性化につなげたい。

・道の駅の重要性は資料のとおりであり、是非とも直結するアクセス道路をお願いしたい。

（雄勝野づくり連絡協議会 会長 戸部尚武 氏）

・立派な建物や設備があるだけでは人は集まらない。いろんな人を呼び込めるイメージが大切である。

・地元人口は少ないので、いかにインバウンドを含めた観光客を呼びこみ、交流人口を増やしていくかが求められる。

・雄勝地域の観光資源は多いので、いかに魅力あるものをつくっていくか、そしてそれに対応できる環境をつくっていくことが大切である。

・まちづくりは、道の駅との連携が必要。例えば、「おしら様の枝垂れ桜」の看板を道の駅に設置しているし、また毎日の開花情報も情報発信してもらっている。

（湯沢商工会議所 会頭 和賀幸雄 氏）

・例えば、道の駅「尾花沢」のように国道と高規格道路両方からアクセスできるのが理想である。

・北上する方々に対しては、休憩者も含んだほとんどの人に立ち寄ってもらえる環境づくりが必要。そこでは、湯沢市の観光情報や物産について、今の時代に合わせたものを提供できるような更なる取り組みが求められる。

・南下する方々に対しては、買い忘れた秋田のお土産を買ってもらえるようなアクセシビリティが必要。
・コロナ関連もいずれは収束の時期が来るので、インバウンド対応としたメニューを山形・宮城県と連携しながら考えていきたい。
・道の駅への集客増として、是非アクセス道路の検討をお願いしたい。

（ゆざわ小町商工会 会長代理 副会長 高嶋 伸夫 氏）
・道の駅を多くの人に利用してもらい、地域発展につながってほしい。
・東北中央自動車道が開通すれば、利用者に素通りされてしまう懸念がある。道の駅効果の発現のためにもアクセス道路は必要である。
・例えば、アプリを使った外国人への情報発信とか、県南の窓口として秋田県の観光物産をすべて揃えるなどの工夫が必要。
・道の駅を中心としたコンパクトシティも期待される。

（湯沢市観光物産協会 会長代理 専務理事 松田一彦 氏）
・高規格道路と直接つながる道路がないと、入込客数はだいぶ違う。
・現在のような、高規格道路から迂回して道の駅に到着して、また戻るのではなく、直結して往復できる道路がないといけない。
・道の駅利用者からの声として、農産物直売所と道の駅が道路で分断されているが、例えば道路付け替えとか、両者間に屋根を設置するなどして一体感を出してみてはどうか。
・コンパクトシティの範囲を明確化して取り組む必要がある。

■会長意見総括

（湯沢市長 鈴木俊夫 会長）
・休憩施設としての立地条件や、湯沢市として持続可能なまちづくり、防災拠点などとして、道の駅が担う役割は大変重要である。
・雄勝こまちインターチェンジが端末インターチェンジでなくなり、交通量が分散され道の駅利用者が減少する懸念があることからも、利便性向上のためアクセス道路は必要である。
・道の駅「尾花沢」までの距離も相当長いことから、休憩施設としての活用のためアクセス向上が必須である。
・道の駅周辺にはガソリンスタンド、コンビニ、銀行、スーパーマーケット、ドラッグストア、病院などがあり地域の拠点になっている。
・道の駅おがちと雄勝こまちインターチェンジのアクセス改良は、共通の意見であることから有効性のある道路整備をお願いしたい。

■関係機関コメント

（国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 所長 日下部隆昭 氏）

・道の駅と雄勝こまちインターチェンジのアクセス改善については、今後の検討会や関係機関などの意見を踏まえつつ、必要性や整備効果の検証を行い、技術的な検討や協議調整を進めることになる。

・道の駅へのアクセス改善は、道の駅の利用促進策のひとつのメニューに過ぎない。本来道の駅は、地方創生を具体的に実現するための極めて有力な手段である。道の駅利用を促進する企画、例えば道の駅をどうしたいのか、何をやりたいのかとしっかり検討していただき、それを伺ったうえで必要なハード・ソフトの支援を行って参りたい。

・広域ネットワークがつながると、その地域をよく知らない人が立ち寄ることになる。トイレのために寄るだけではなく、プラスアルファをつけられるような取り組みが必要。例えば、農産物直売所、小町の郷公園、おしら様の枝垂れ桜、近隣の観光地までつなげていくなど。

（秋田県雄勝地域振興局 局長代理 建設部長 高橋悟 氏）

・県でも、道の駅を通じた交流人口の拡大を目指している。

・道の駅おがちの利点は、県南最初の情報発信施設であること。山形県側の道の駅までは空白地が続くため、周辺の情報がよく分からない場合がある。

・県南地区全体をカバーできる立地条件にあるので、うまくＰＲできるのではないか。

（秋田県警察本部 湯沢警察署 署長代理 交通課長 遠田一彦 氏）

・道の駅利用者の安心・安全面を守ることが大切である。

・アクセス道については、どのようにすれば一番安全なのか、関係機関の協力をいただきながら検討する必要がある。

以　上